

ハンドボール

No. 15

Japan
Handball
Association



<input type="checkbox"/>	社会人
<input type="checkbox"/>	学生
<input type="checkbox"/>	高専
<input type="checkbox"/>	高体連
<input type="checkbox"/>	中体連
<input type="checkbox"/>	小学生

<input type="checkbox"/>	全国大会
<input type="checkbox"/>	ブロック大会
<input type="checkbox"/>	都道府県大会

<input type="checkbox"/>	成年男子
<input type="checkbox"/>	成年女子
<input type="checkbox"/>	少年男子
<input type="checkbox"/>	少年女子

試合番号	13
------	----

年月日	2018年9月15日(土)
大会名	第73回国民体育大会・福井しあわせ元気国体2018

公式記録用紙

A	群馬県	大分県	B
都道府県	市町村	会場	回数
福井県	福井市	福井市体育館	準々決勝
前半	A 11	B 15	最終結果
	A 21	B 30	第1延長
			第2延長
7mT得点/総数	A 0/0	B 0/0	7mTC
チームタイムアウト		チームタイムアウト	
1 19:12		1 24:49	
2 後 20:29		2 後 24:49	
3		3	
No.	群馬県	G	W
1	福大輝		
2	山田和直	5	
3	浅香裕哉	3	1
4	工藤 颯	1	
5	高橋 樹	1	1
6	黒澤 志龍	2	
7	林 歩夢		
8	松井 大夢		
9	薫 海斗	1	
10	小金澤 琢磨	2	
11	新井 駿佑	6	
12	矢野 巧		
役員A	板谷 則史		
役員B	引野 文裕		
役員C	田貝 基		
役員D			
No.	大分県	G	W
1	伊藤 玲央		
2	牧 雄大	5	1
3	坂田 敬一	1	1
4	大津 慎吾	6	
5	利光 良介	5	1
6	後藤 俊介		
7	三重野 将伍	2	
8	園田 俊稀	1	
9	浜田 弘晟	2	
10	佐野 祐太	8	
11	住吉 連		
12	野上 遼真		
役員A	平井 徳尚		
役員B	富松 秋實		
役員C	平井 香代子		
役員D	牧 健一郎		
A	チーム役員A署名		B
特記事項			

レフェリー	関 博隆	寺田 良太	
T D	中浦 悟	松田 隼蔵	
J.H.Aオフィシャル	山川 博行		

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール

No. 14

第73回国民体育大会 平成30年度「福井しあわせ元気」国体

試合結果・戦評報告書

競技日	H30. 9/15(土)			試合番号	13
会場 コート	A	福井県営体育館	種別	成年	少年
	B	福井市体育館	性別	男子	女子
	C	北陸電力福井体育館フレアAコート	回戦	一回戦	二回戦
	D	北陸電力福井体育館フレアBコート		準々決勝	準決勝
	E	永平寺緑の村ふれあいセンター		3位決定戦	決勝
Aチーム名			Bチーム名		
群馬県			大分県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
21	11	前半	15	30	
	10	後半	15		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
	7mTC				

戦評

大会3日目、少年男子準々決勝2試合目。昨日の2回戦を接戦のうえ、勝ち上がった両チームの一戦は、大分県④大津のミドルシュートで幕を開けた。群馬県はアグレッシブな2:4ディフェンスからの二次速攻を起点に攻撃を繰り広げていき、群馬県④工藤の速攻からの得点が決まり、前半10分にして4対3とこの試合初めてリードを奪う。両チームともに攻守の切り替えが早く、一進一退の競り合いが続いたが、大分県は①GK伊藤のファインセーブ、さらに③坂田、②牧の連取もあり前半19分で10対8とリードを広げた。ここでたまたま群馬県はこの試合初めてのタイムアウトを要求し、流れを引き戻しにかかる。すると群馬県はタイムアウト後すぐに2点連取し、すかさず試合をタイスコアに戻す。しかし、大分県も負けじと⑩佐野、本日好調の④大津のミドルシュートなど4連取で徐々に試合のペースを握っていき、前半を15対11で折り返した。

4点ビハインドで後半をスタートした群馬県は、⑨黛のサイドシュート、②山田の速攻と試合の流れを掴む。対する、大分県も⑤利光を中心とした息の合ったコンビネーションプレーなどで着々と得点を重ね、⑩佐野のカットインシュートが決まった後半17分23対18とこの試合最大の5点差となる。追いつきたい群馬県もスタミナ豊富な④工藤の激しいディフェンス、また残り10分を切ったところで、7人攻撃を仕掛けるなど、懸命に追いすがるも決定的な好機を活かせず、なかなか点差が縮まらない。GKを中心とした集中力の高いディフェンスを保った大分県が30対21でこの試合を制し、準決勝に駒を進めた。

記載者氏名

杉堀 智彦

送信日時

月 日 () :

送信者署名